

## 互いの文化や価値観を理解し合い、尊重し合っていく「共生」をめざして

右の数字は、何を表しているのでしょうか。直近3年間に日本を訪れた外国人の数です。日本の総人口に匹敵する数の外国人が日本を訪れています。その多くは、観光目的で、日本の文化を体験して好意的な情報を発信する人たちもたくさんいます。中でも、子どもたちが横断歩道を渡った後にお辞儀して感謝の意を示すことに驚いたり、日本の学校では当たり前の掃除の習慣を取り入れる国が増えていることを聞くと何だか誇らしくも感じます。私たちの住む八代市でも外国の方々を見かけることが多くなりました。くまもんポートに寄港する豪華客船から下りてくる人々を見ると、八代を訪れてくれてありがたいと思うとともに、お互いに快適に過ごすために必要なことは何かと考えることもあります。

ところで、八代市に暮らす外国人市民は現在何人でしょうか。正解は、4,032名です。平成24年が1,058名だったので、この12年間で約3.8倍にも増えたということです。では、どこの国から来た人が多いかというと、①フィリピン1,276名、②ベトナム972名、③インドネシア634名、④カンボジア534名、⑤中国238名、以上が上位5か国です。このうちの大部分が「技能実習生」として農業や建設業などの現場で学びながら働き、3年ほどで母国に帰って産業の発展に寄与したり、労働力不足を補うために八代に残って私たちの生活を支えたりしています。これからは、外国の人々と共に働いたり生活したりすることが多くなるでしょう。その家族と学校で共に学ぶ機会も増えていくでしょう。そんな中で、最も必要なことは、互いの文化を理解し合い、尊重し合うことです。言葉や文字だけでなく、互いの生活習慣や価値観、道徳観などを認め合い「共生」していくことが大切です。

7月2日(水)、四中体育館に八代市国際課の方々とインドネシアから来られた技能実習生4名、JICA海外協力隊の一員としてベトナムで医療に従事された川上真理子さんに来ていただき「異文化たいむ～世界のことを学ぼう～」を開催しました。技能実習生の皆さんとの交流と川上さんの実体験をとおして学んだことを今後のよりよい「共生」社会づくりに役立てたいですね。

## 八代中体連、最後まで全力を出し切りました

6月22日(日)の空手道競技をスタートに、八代中体連における四中の熱い闘いが、29日(日)まで繰り広げられました。選手達は、自分の可能性を信じ、仲間を信じ、中体連の波に乗りながら最後まで力を出し切りました。結果はHPに掲載しています。明日(12日)からの県中体連での全力プレーにもご期待ください。

2023年	約2,507万人
2024年	約3,687万人
2025年	約4,200万人(予想)
合計	約1億394万人
2030年	約6,000万人(目標)



技能実習生と交流する子ども達



生徒の質問に答える川上さん



奮闘する生徒！

